大和屋

玉響

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
大和屋

【Ｎコード】
Ｎ６０７８Ｖ

【作者名】
玉響

【あらすじ】
時代が移り変わり行く刹那に生きる、人間と妖の起こした事件。その顛末を綴ります。

序幕

時は江戸時代末期。

後に言われる文明開化の足音が聞こえ始めた時。

それは、視えざるものが空虚な存在となり始めた頃。

それは、視えざるものと共に生きる者が身を隠す頃。

裏の歴史に名を刻む、一軒の店屋があった。

表の顔は、常連も多い普通の茶屋。

しかしその裏の顔は、視えざる者を使役して暗躍する何でも屋。

金を積めば文字通り、何でも遂行してくれるという。

これはその何でも屋、『大和屋（やまとや）』が起こした事件の真相を記したものである。

序幕（後書き）

江戸（っぽい）時代。
実際の江戸時代とは無関係です。

一ノ幕

時は江戸。処も江戸。
慌しく人の群れが行き交う道から一歩入ったところにある茶屋。
その店先で寛(くつろ)ぎながら、暢気に団子を齧る一人の少年。
「はあ……どいつもこいつもせかせかしてんなあ」
その言葉に苦笑しながら、茶屋の娘はお茶のおかわりを差し出す。
「君こそ、どこぞを目指して旅をしてるんじゃないの？」
「それだそれだ」
湯飲みを一気に傾けてお茶を呷(あお)ると、少年は娘を振り返った。
「『大和屋』って茶屋を探してんだ。ここら辺にある筈なんだけどなあ……」
「やまとや？」
「やまとや」
少年の言葉に、娘は道に一歩出るとちょいちょいと彼を呼ぶ。
大人しく出てきた少年に、今度は店の正面を指差して見せた。
茶屋にしては、やけに豪勢な看板。そこには『大和屋』の文字。
「やまとや？」
「やまとや」

娘がにっこり笑う。
少年が声を上げようとした瞬間。
「何やってんだこの馬鹿！」
怒声と共に、脳天に衝撃を受けた。

二ノ幕

少年が目を覚ましたのは、見知らぬ座敷の布団の上だった。
彼以外誰もいない部屋の中、少年は何かを探すように首を回らせる。
そうしている内、不意に部屋の襖が開いた。
「あ、目ぇ覚めたんだね」
入ってきたのは先刻（さっき）の娘。手には水を張った桶と湯飲みが一つ。
どうやら此処はあの茶屋の中らしい。
「君が千茅（ちがや）だったんだね」
娘はそう言いながら少年……千茅に白湯の入った湯飲みをわたした。
それに口をつけながら千茅は頷く。
「僕は紗透（さゆき）っていうんだ。君とは同業者だよ」
にっこり笑う娘……娘？
「……は？」
思わず口から湯飲みを離した千茅に、“娘用の着物を着て茶屋の前掛けをつけた”紗透は再びにっこり。

「こう見えても僕は歴(れっき)とした男だよ」

千茅の口がぽかんと開いた。

こう見えてもああ見えても、目の前にいるのはどの角度からも茶屋の娘にしか見えない。

強いていうならば、髪が町行く娘衆よりも少しばかり短いことが引っかかる程度か。

「……何でそんな格好してんだ」

「んー……まあ、趣味と実益を兼ねて、かなあ」

「趣味なのか。と言うより実益って何だ」

「そりゃあ情報収集だよ、情報収集。僕達にとって情報は何よりも大事だろ？　お堅い旦那衆から情報を仕入れるには、娘姿の方が何かと得なんだよ」

そう言うと娘……元い少年である紗透は、千茅の顔に些か乱暴に濡らした手ぬぐいを投げつけた。

「ぅぶっ」

「先刻も言ったけど僕達は同業者で、同時に商売敵でもある。必要最低限の事は訊かれれば教えるけど、それ以外に教授する気は無いから、そのつもりでね」

言うが早いか、水の入った桶を持って立ち上がる。そのまま踵を返し、襖に手を掛けたところで振り返って。

「さっさと顔拭いておきなよ。君の師匠を呼んできてあげるから」

そう、花が咲いたようににっこり笑った。

二ノ幕（後書き）

ここの娘さん達は日本髪を結っていません。
なので”少し短い”紗透の髪は、セミロングくらいだと思っていただけると。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6078v/

大和屋

2011年8月31日03時27分発行